

富貴の家・屋敷にむまるゝとなり・四つには・富貴の身に生・また其身は・息災に生るとなり・五つには・衆人愛敬を得となり・六つには・高位貴人と生るなり・七つには・天子の徳をうるなり・八つには・金輪王と成となり・九つには・常に諸神の・加護あるなり・十には・22才悪道を除・成佛の徳をうるなり・十一には・六親富貴の徳をうるなり・十二には・壽命長遠となり・出家は出家の名利あるなり

第十七 六地藏巡地蔵告初給先例有事

扱洛陽井四番の・地蔵廻といふ事は・さんぬる貞享二年の・春より催して・同七月十四日まで・井四ヶ堂巡道の・次第を板にかきつけて・掛置たるに・あくる十五日に・京の寺町草堂の南・三福寺の夢見の・地藏菩薩へ・俗一人まいりて・彼井四番の地蔵巡の・看板を見て・驚たる風情して・手をうち・さてくおくれたりといふなり・寺僧これを見て・いかなることに・かくはのたまふぞ・誰人かといふば・されば某ハ22ウ吉久といふものなり・我三年前に・この靈夢を・地藏の汝・我を信ぜば・洛陽井四ヶの・地蔵巡をいたすべしとなり・此御告にてこそ・あるらんと・かたりける・京都には・井四ヶ寺に・地蔵巡あり・江戸には・六阿弥陀・六地藏巡ある者也

第十八 六地藏建立六所に立給先例之事

扱平家の大將・大相國禪門・淨海は・四海泰平を吟じ・此間の兵亂に罪障のほども・おそろしく思て・御長六尺の・地藏を造立し奉り六十六箇國の・亡魂を吊・平等利益の旨を・思立たまふなり・さて地藏は・元來其形道路に立たまふ誓なれば・都の入口六所に立て・往來のものども・拜奉らば大なる・結縁となりぬべし・法界旦那を・縁と23オして・

利濟普・遠路の難を除・海路のあやうきを救・國家安全を守たまへとて・京都の六のちまたに・各堂を立・六地藏の尊像・御長六尺の尊像を・立像に彩色・安置し給ふゆへ・京都へ・往還の者ども・拜ざるはなしとなり・これ結縁ふかき・建立なり・此一尊を・佛師八人宛に・命じて・六昧を・四十八人にて・作けるとなり・井四日に成就して・七月一日より始て・井四日の午のとき・六所一時に供養あるとなり

第十九 六地藏同六箇所堂先例之事

都滑谷東墓山福田寺は・往昔尊氏將軍・父和四年十一月井八日に・加賀爪甲斐權の守行貞・隱岐の守秀村・二人の寄進せらるゝ地なり・古は六條の末・東山汁谷・妙法院23ウ御門跡の・境内にてありしとなり・此地蔵は參議小野篁の作なり・さて愛宕の郡六道といふ地より・冥途にかよひ炎王に對面ありて・六地藏の像を作・東山鳥邊野といふ所に・六箇所の堂を作・六地藏を安置する其一なり・靈驗あらたにして・此地蔵は東山・南無の地藏と申なり・いづれに疏はなきといへども・別て此本尊は生身の・地藏菩薩とおなじ事なれば・六道の苦げんを・思いだして人々はまた此江戸の・六地藏にも信心あるべきことなり

第二十 阿弥陀觀音地藏同一昧而又格別之事

扱阿弥陀の因位法蔵は・天地開闢の人界・世間の作法24オ法度の・道の教の根本なり・これに依て弥陀大日は・乾坤とて・弥陀は天なり・大日ハ地なり・其中間より・地藏ハ地の・一切萬法出生性徳の法徳たり・弥陀は出世間の法執をば超過して・因位より果上に至まで・唯一遍に我名の利益の徳を・西方に顯して・成等正覚をなしたまふなり・亦地藏ハ六道のちまたに・金剛の本誓に乗じて・現在より断絶なく・未來の六道ま

での・大慈大悲の生徳なり。其身も衆生二世の惡に。かはりたまひて。助たまふことなり。阿弥陀は。名躰不離にして。名号をもつて。十方を摂化したまふゆへに。其六字にて。一切を利益なり。弥陀と地藏とは。同一法性にして。弥陀は西方極樂の教主地藏は「24」六道の能化たり。彼是各別なり。さては観音と地藏とは。また同一体なり。地藏観音名躰各別の義なり。観音も地藏も。二世安樂の利益悲願は地藏観音もおなじ。六道の能化なり。また同一にして。観音は正法明如来なれども。観音菩薩の修行ハ。悲智雙行。自他不二平等にて。其上其身ハ菩薩となりて。衆生を利益したまふなり。又地藏は。三世十方の。諸佛のためには。灌頂を受たまひ。これも元南方宝相と宝勝佛より。出生なれども。菩薩の身にては。娑婆世界の衆生。悉く佛心佛性を顕して。のちに菩薩の。姿の形相にならんとの誓願なり。観音とおなじ一躰にして。地藏は各別なり。さては阿弥陀と。地藏菩薩と。観音菩薩「25」オと。三躰同一体なれども。また各別の義なり。尤諸佛諸菩薩の。内證外用を論ずるに。内證は皆もつて。自性法身毗盧の全躰となり。しかれども。外用の諸尊は。法王の一善一官を司とつて。法界の一門に至ては。其本誓の志願各別なり。衆生まちく。の。万機を一途に。利益したまふゆへに。阿弥陀と。地藏と観音は一躰にて。名体各別なり。しからばまたハ。弥陀と地藏と観音と三躰。如来と菩薩との差別のことは。菩薩も如来の。利生利益の。慈悲をわくるにほさつは。我身にかはりての。拔苦與樂なり。阿弥陀ハ名躰不離にして。名号をもつて衆生を利益有なり。しかれば衆生の。慈悲にあづかるときは観音地藏「25」菩薩は。身の利益ふかし。しかれども。ぼさつの慈悲は。肉に入がごとく。あミだの慈悲ハ骨に入がごとし。阿弥陀ハ果上圓滿の上にて。一度覺轉の佛。二度生死にかへらずとなり。其うへ弥陀の内證より。地藏観音は利益を出生せり。法花直談にも。

六地藏のおく。八相成道あり。即四十八願に應ずといへり。真言の種子。地藏の詞字より。伊字門に入。阿弥陀の梵字を。現したまふとなり。又秘經に娑婆世界にては觀自在菩薩といふ。また西方極樂にあつては。阿弥陀如来妙覺の體にして。下化衆生の時は。聲聞の形像となり。身に袈裟をちやくして。地藏となつくとくとなり

第廿一 阿弥陀観音地藏同一躰註釋之事「26」オ

夫弥陀観音地藏とは。同一躰にして。利益利生の各別の。子細ハ。観世音元は正法明如来にて。悲智雙行二世の修力あり三十三身の分身ハ。六道の能化にして。南方無垢世界の成道の菩薩たり。地藏ハ元南方宝相佛。寶勝佛より。出生にて名は。菩薩姿ハ聲聞比丘の形相にて。四十九變の應化にて。今生後生利益のゆへに。弥陀の因位法藏の有様は。今の地藏なるべし。地藏ハ世界の衆生。悉く成佛して。後に菩薩の姿を。現し給ふとなれば。法花三の化城品に。西方に二佛あり。一名は阿弥陀佛。二名ハ度一切世間苦惱とあれば。世界の衆生の。苦惱をば。地藏の身に受たまひて。利益はあるものなり。弥陀ハ淨穢不二とて。「26」ウ世界も淨土もへだてなく。凡聖一如にして。凡夫聖人の替なく。自他受用の差別もなく。唯衆生の。出離生死を司どり。安養世界。西方淨土の。教主と成等正覺。まします事は。延命地藏と延る命なり。元一切衆生は。不生不滅なるものを。衆生ハ愛に生れて。彼に死。生死の轉變除なければ。地藏ハ不休息菩薩とも成給ふなり。さて一切衆生の。不生不滅のその元は。弥陀の司どるゆへに。その徳にて。弥陀ハ無量壽佛と。名乗給なり。さて天台大師の無量とは。人のこゝろも。世界も果しなきゆへに。弥陀も衆生のために。功德無量にて。一切の事を無量と經釈せり。しかるに善導は無量壽と。釈したまふ「27」オ事は世間珍寶命第一の命なれば。